

心理情報処理

[講義] 第2学年～第3学年 前期 選択 2単位

《担当者名》○百々尚美(心理科学部)・本谷亮(心理科学部)・金山裕望(心理科学部)・
富家直明(心理科学部)・上河邊力(心理科学部)

【概要】

心理学で扱うデータは、誤差を多く含んでいることや同時に関連する多数の変数を測定していることが特徴である。このため、データへ高度な統計的処理を行い、結果を解釈する力が要求される。この講義では、JASPと呼ばれる統計解析用のソフトウェアを各自のパソコンにインストールし利用しながら心理学的なデータに対する統計的処理を習得する。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【ディプロマポリシー(学位授与方針)との関連】

DP3. データサイエンティストとして、社会の変化に関心を持ち、人々の新たなニーズに創造的に対応できるように生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

DP5. 複雑化する医療・保健・看護・福祉・心理の現場での医療専門職とのコミュニケーションを通して多職種で協働し、データサイエンティストとしての専門性を発揮する姿勢を身につけている。

【実務経験】

百々尚美(公認心理師)、本谷亮(公認心理師)、金山裕望(公認心理師)、富家直明(公認心理師)、上河邊力(公認心理師)

【実務経験を活かした教育内容】

臨床・研究の成果を反映させた講義内容となっている。